

〈2014年3月23日〉

## 談話室

▼▽英国の旅行家イザベラ・バードは明治初期に東北や北海道を旅し、置賜盆地を「アジアのアルカディア」とたたえた。新潟県境の十三峠から山形、新庄を経て秋田へ抜けた県内ルートの散策マップが、近く発行される。

▼▽バードは外国人から見た地方の生活や自然を詳しく記し、その旅行記は英国などでベストセラーになった。当時の面影が最も色濃く残るのは本県かもしれない。彼女が苦勞して越えた小国町の黒沢峠や萱野峠では、敷石道を復元するなど旧街道を活用した地域興しが盛んだ。

▼▽バードは、上山を「もしここが外国人の容易に來られる場所であつたら、美しい景色を味わいながら各方面にここから遠足もできるから、彼らにとって健康的な保養地となるであらう」（高梨健吉訳「日本奥地紀行」）と書いた。現在のクアオルト構想にも通じる点がある。

▼▽マップは、有志のアルカディア街道I・B倶楽部が作製。旧街道を含めた地図や「日本奥地紀行」の記述、見どころの写真などを入れる。バードが旅した道をたどり、昔と今を同時に楽しめるのが魅力だ。本県が本来持っている良さを見直し、未来に生かすヒントにしたい。